



勉強をすることの意味とは

山東省・済南外国語学校 高1（女）

李 文馨

「今日、学校はお休みでしたか。」

「あっ。は、はい。休みです。」

少し罪悪感を感じながらも、私は公園で鍛錬しているおじいさんに嘘をつきました。

一昨日、進学にもかかわる、とても大切な試験を受けました。うまくできたと思うものの、昨日からどうしても集中して勉強できなくなりました。今日も、「学校に行っても勉強できない。」と、母に学校に休みを申し出てもらいました。それから、気分転換のために、この公園の中にある図書館に来ました。夏というのに、ここはずいぶん涼しいです。

突然、私の携帯電話が震えました。「ま、まさか、成績がもう…！」と思って、慌てて携帯を取り出しました。手のひらは汗をかき、腕が携帯とともに震動していました。恐る恐るメッセージを開いたら、出てきたのは住宅の広告でした。溜め息をついて、落ち着いたと同時に、心の中で自分を責めました。「いつもの試験では何でもないのに、いざという時にこうなるなんて。」と反省しつつ、図書館のロビーへ入りました。すると、いつもとはかなり違う雰囲気を感じました。小さな写真展覧会が開かれているようでした。

「テーマは読書か…」もともと写真芸術などに興味がなかった私は、直接2階へ行こうとしました。しかし、そんな私の足を止めたのは、右側に掛かっている、ある行商人の写真でした。背景には黛色の古い扉と開いている木の扉、屋外で遊んでいる子供たちが見えました。そして、扉の前にある石段に座っていたのが、その行商人です。彼は両手で本をぎゅっと握りしめ、目をほそめながら夢中になって小説を読んでいます。ストーリーのクライマックスなのでしょう。彼の背中は大きく曲がり、今にも頭が本の中に入りそうです。横には柿がいっぱい入った籠が置かれてい

ました。彼はきっと柿を売る人でしょう。真っ赤な柿は火のように、秋の寒い風の中で燃えているように見えました。同時に、その人の手も、寒さで赤くなって腫れていました。でも、彼は何も気づいていないようです。それだけではなく、寒い風にも子供たちの歓声にも。彼はすでにもう一つ別の世界——つまり小説の世界に入り込み、そこの住民になっていたのです。厳しい顔をしています、彼の心からは情熱と愉悅が溢れ出ているのが分かりました。私はその写真に吹い込まれていくようでした。

そして突然、小さい頃のことを思い出しました。ある日、科学の授業が終わった後、急いで家に帰りました。母に「早くご飯作ってよ。」と言って、すぐかまどの前に走って行きました。母がガスをつけると、私はすぐ「わあ。」と叫んで、母に「ね、ね、本当に青い火があるのね。」と、大声で言いました。その日の科学の授業で、このことを学んだのです。

その時の私の世界は狭いものでした。自分の周りのことしか知りません。だから、少し勉強すると自分の世界が一瞬で広がり、色づいて行きました。外の世界を知れば知るほど、自分の世界の狭さが分かってきて、もっと勉強したくなりました。当時の私も、この行商人と同じように勉強が好きでした。「学生だから勉強するのは当然だ。」とか、「しっかり勉強しないと大学に入れない。」とか、「大変だけど我慢して勉強しなくちゃ。」のような言葉を口にするどころか、考えたこともありませんでした。なのに今はこんなことばかり考えて、勉強する楽しさをすっかり忘れてしまっていました。勉強することはもともと、自分の世界を広げるために、探求心や好奇心にかられて自ら進んですることではありませんか。

そんなことを考えていた時、
「背が高くなりましたね。」と知り合いの管理員さんに声をかけられました。
「毎月来ていて、あなたは本当に勉強が好きな子ですね。」

私が答える間もなく彼女は行ってしまいました。

窓の外は蝉時雨、数年前の私も、こんな夏の日初めてここに来たのです。その時の小さな子供が、今の私になりました。変わったのは歳と身長のほか、何かありますか。私は、どうやってだんだんと今の自分になったのでしょうか。

私たちはみな生まれた時、何も知らないむくな赤ちゃんでした。でも、年齢が上

がるとともに周りの環境を通じて常識を身につけて大人になります。そして、勉強は私たちそれぞれの性格や能力を育て、個性の違う人格を導きます。例えば、数学の学習はまじめで緻密な性格を、文学は人に豊かな感受性を与えます。たとえ数学が苦手でも、科学的な考え方は心に刻まれます。私もそうです、昔は怒りやすく、よく親や友達とけんかしました。でも、歴史や政治の勉強を通じて、もっと穏健な人になりました。ベーコンは、「学んだものは性格となる。」と言いましたが、彼が伝えたかったのは、まさにこういうことでしょう。こうやって、私たちはだんだん自分で自分の道が選べる人になっていくのです。そして、人生の選択肢に直面した時、私たちの道しるべ・提灯となっているのも、勉強を通じて身につけた知識です。知識の明かりで、私たちは目の前の道をもっと全面的に認識することができ、自分の意志でよりよい方向を選んで、その道を行きます。そしてその途中、また新たな出会いがあり、つらいことや苦しいこと、そして忘れがたい幸せな瞬間がたくさんあるのです。そのすべての中でいろいろ感じて学んでもっと成熟になり、もっと多くの選択肢に辿りつくことができます。こういう過程を何度も繰り返して、人はだんだん成長します。「自己」というものも、この中で育成されるものでしょう。今の私になるまでもいろいろな選択がありました。その選択の中で、私が選んできたのは、「勉強を続けて自分を充実させながら前へ進む」ということです。それが今の私を造りました。そして、今の私が選びたいのもこういう道です。ですから迷うことなんてありません。ただ選んだ道をまっすぐ楽しく行くだけです。勉強を楽しい経験として体験すればいいのです。

携帯電話がまた震えました。きっと成績の知らせでしょう。でも、それを取り出す手は、もう震えません。合格しなくても能力不足なだけ、目的はもともと成績ではなくて、もっと他に大切なことがあるのですから。メッセージには「おめでとう。安心してのんびりしても大丈夫よ。」と書いてありました。私はにっこり笑い、メッセージを削除しました。でも、のんびりするわけにはいかないでしょう。人生にはいつか終わりが訪れますが、勉強に終わりはありません。人生よりもずっと長い、はてしなく続く旅です。今、私はその旅の途中にいます。

「さて、2階に行って、英語の本を2冊借りようか。」軽快な足取りで私は階段を登りました。